

十四名の現代作家による、
ものけ根付展

ものけ根付の幸い

第三集

狗、至水、上原万征、小野里三昧、かぶ

齋藤美洲、道甫、永島信也、森謙次、山鹿、由良薫子

楽虫、利歩、れんげ堂

花影抄

2022年7月9日[土]～17日[日] 休廊 11日[月]

作家代表の挨拶

水木しげる生誕地の隣町で生まれ育ち鬼太郎を貪り読む幼少の僕が、妖怪を好きになるのは必然でした。

単なる創作でなく、全国各地で語り継がれている話を集めて描かれる妖怪たちは妙なりアリティに裏打ちされた魅力があります。

僕が考える妖怪とは、人の不安や願望によって生まれてくる存在です。

「あその淵は河童が出るから行くな」とか、「疫病はアマビエを描けば無くなる」とか。

原因のわからない現象に対してわかりやすくキャラクターを作るのが妖怪文化なんですね。

妖怪の逸話を読んでいると、当時の人の思いや土地や歴史までわかってきてとにかく興味深い。

だから妖怪を楽しむ、愛でるのが今の日本人です。

根付は物語の凝縮された彫刻ですから、相性は抜群。

実用性と芸術性がせめぎ合う造形は他の彫刻にはない魅力ゆえ、妖怪の不可思議さと最高のマリアーージュ。

完成された文化同士の合体、いちご大福みたいなものです。

個人的に、可愛くて愛おしいものであることが根付の本質と思っています。現代でも残り、熱く論議され、進化しながら愛でられ続けるのはそんなところがあるからなのではないでしょうか。

水木御大の監修で妖怪像を作る仕事をしていたとき、掛けられた言葉が忘れられません。

「顔を可愛く。可愛くないと永く愛されません。」

至水さんとの妖怪プロレスから始まった「勿怪の幸い」ももう3回目。

参加する作家さんたちの表現力と熱意によって今回も最高の異界が展開されることでしょう。

根付も妖怪もいつまでも愛される存在であるために。

もののけ根付展「勿怪の幸い 第三集」開幕です。

2022年7月吉日 狛

店主挨拶

妖怪をテーマにした現代根付のグループ展が開幕します。ベテランから若手まで、総勢 14 名の作家が一堂に会する妖怪根付たちの夏祭りです。

一作家が根付・提げを各 1 点ずつ、さらに巾着も加わり、合計 28 点が並びます（本デジタルカタログでは根付作品と巾着のみの公開となります）。

隔年の開催で、好評につきおかげさまで三回目を迎えるこの企画。もともとは、至水さんと狛さん 2 人の中での「妖怪好き同士、作品で勝負しろ〜！」という狛さんから至水さんへの愛を込めた挑戦状がきっかけで始まった企画です。参加の作家それぞれの作風や経歴などをすべて呑み込んでしまう妖怪というテーマの懐の深さや広さを感じます。

根付の題材はもともと七福神のような縁起のものが多かったわけですが、近年では妖怪の根付は定番といった印象になってまいりました。隔年でこのテーマについて考えていますが、妖怪根付

は縁起物と同じような意味合いで求められているように思います。人にとって怖い存在であったはずの妖怪という異能の者たち。現代においては人間社会のルールの外で勝手気ままに跋扈(?)する彼らの姿に、私たちは憧れや願望を持って眺めていて、肖(あやか)りたい気持ちがあるのではないかと思います。ルール外でも元気でやっていける！むしろ、アウトローでおおいに結構じゃないか！？まさに“勿怪の幸い”じゃないか！？ということです。今展でもそういう心持ちを楽しんでいただければと思います。

今回は、上海からの参加作家もあり、海を越えた感じの盛り上がりでしたが、今年はオミクロンの影響で、国内作家のみの出品です。来年のことを言うと鬼が笑うと申しますが、また海を越えた交流が再開されることを願っています。世界中の妖怪ファンに幸あれ！です。

根津の根付屋 橋本達士

目次

(項目をクリックすると該当ページに飛びます)

[狛「きゃしゃどくろ」](#)

[至水「魔ガ刺ス」](#)

[上原万征「大将釜野将監焼安」](#)

[小野里三味「古籠火」](#)

[かぶ「ひともし 見習い小狐」](#)

[齋藤美洲「青鷺火 なを激しく」](#)

[道甫「訝し」](#)

[永島信也「いっぽんだたら」](#)

[森謙次「花神見習い」](#)

[山鹿「吸血鬼」](#)

[由良薫子 熔怪根付「信楽狸？」](#)

[楽虫「王子の狐火」](#)

[利歩「雷曇烏」](#)

[れんげ堂 豆巾着「鬼の念仏」、スマホ巾着「般若」、
普通サイズ巾着「されこうべ」](#)

[※ 作品販売について](#)

狗「きゃしゃどくろ」

KOMA "Weak Skull"

3.8 × 3.7 × 3.0 cm

鹿角 象嵌：琥珀

stag antler Inlay: amber

239,800 yen



「きゃしゃどくろ」は、貧相体型のコンプレックスを持った人間たちの怨念が集まって生まれた妖怪。人を襲っても貧弱ゆえに返り討ち。少しでも強くなるため牛乳の補給が欠かせないが、骨なので吸収できない。
ある男が服屋に入ったとき、店員にいろいろと失礼なことを言われた挙句、「お客さんはキャシャですから〜」とへらへらと言われた。
華奢とは体の線が細くて美しいという意味がある一方、現代では体型を

ディスる方に使うことが多い言葉。合わせ技一本で退店となったが、いつの間にかその店は移転していた。きゃしゃどくろの呪いのせいだとかどうとか。
軽はずみに人の体型を口にするのはやめましょう。
きゃしゃどくろが来るぞ！怖くないけど。(狛)



至水「魔ガ刺ス」

SHISUI "Evil Erosion..."

3.7 × 3.2 × 2.9 cm

蝦夷鹿角 象嵌：黒水牛角
stag antler Inlay: buffalo horn

385,000 yen 抽選販売



人類の発現時より大気中に休眠状態で浮遊する「魔」と呼ばれる存在は、通常の人間には認知不可能で、不運にも接触したならば、どれほど善良な人間であっても心を邪に支配され悪行を成す。

この現象を我々は「魔ガ刺ス」と形容し不問霊障に分類されるが、「魔」が信心深く得の高い清らかな人間の気を察知した場合、瞬時に休眠を解き受肉を目的とした能動的接触を試みる、これは最上位霊障に位置付けられた特務僧兵対応事案である。

僧兵行動規定第一条第一項

「魔に刺されし者は受肉に至る間に速やかに斬首すべし」

を宝誌和尚立像をモチーフとして根付化しました。

特務僧兵斥候班「金糸雀」の死闘を描く至水妄想奇譚「魔ガ刺ス」は、ブログ「悪魔ノ天秤」で公開いたします。(至水)

<https://deadpool-shisui.blogspot.com/>



たいしょうかまのしょうげんたきやす
上原万征「大将釜野将監焼安」

UEHARA Mansei "Cauldron Incarnate Monster"

4.8 × 3.9 × 2.5 cm

象牙、九二五銀、黄銅
ivory Inlay: silver 925, brass

451,000 yen



「大新板化物飛廻双六（おおしんばんばけものとびまわりすごろく）」に登場する頭部が釜の化物である。胴に“大”の字が書かれている鎧を纏い、釜の蓋は兜に見立てられているよう。右手に采配、背後に“大釜”と書かれた旗。腰かけた床几もまたものけなり。（上原万征）

小野里三味「古籠火」 ころうか

ONOSATO Zanmai "Lantern Fire Monster"

6.0 × 2.9 × 2.7 cm

鹿角 象嵌：琥珀

stag antler Inlay: amber

572,000 yen



もともとは、石灯笼の妖怪として鳥山石燕が描いたものであると考えられている。そして今の世で「古籠火」の灯火は何を導いてくれるのだろうか。(小野里三味)

かぶ「ひともし 貝習い小狐」

KABU "Little Fox Practicing Lighting a Fire with his Tail"

4.6 × 3.2 × 2.3 cm

鹿角 象嵌：羊角、黒檀、金箔
stag antler Inlay: ram's horn, ebony, gold leaf

231,000 yen



石灯籠を見ながら、思いつきました。以前に作った「ひともし」
(2012年制作)のように、尻尾で立派な火を灯せるように練習する小狐です。(かぶ)



あおさぎび
齋藤美洲「青鷺火 なを激しく」

SAITŌ Bishū "More Intense Blue Heron Fire"

7.6 × 4.0 × 1.6 cm

鹿角 象嵌：アクリル
stag antler Inlay: acrylic

550,000 yen



彫り進むうち近頃の世情、情勢を想うと青鷺火がめらめらと
燃え上がってきました。

(齋藤美洲)

いぶか
道甫「訝し」

DOUHO "Doubtful"

5.3 × 5.0 × 2.5 cm

鹿角 象嵌：水牛角
stag antler Inlay: buffalo horn

244,200 yen



疑われるものを具現化した妖怪です。中国の諺に「瓜田不納履、李下不正冠」（瓜田に履を納れず、李下に冠を正さず）というものがあります。人に疑われることを避けるべきという意味です。この諺が元ネタの妖怪沓頼（くつら）を根付にしました。疑われる、怪しいモノ…。つまり怪です。道甫の妖怪感、根付を通してご照覧あれ。（道甫）

永島信也 「いっぽんだたら」

NAGASHIMA Shin'ya "One-legged Bellows"

4.7 × 4.0 × 2.7 cm

黄楊 象嵌：ガラス、鹿角、水牛角、岩絵具
box wood Inlay: glas, stag antler, buffalo
horn, mineral pigments

363,000 yen



「一本だたら」の“たたら”とは、たたら製鉄に通じています。片足で^{るくる}轡を踏み続けることでその足が衰え、片目で炉を見るために片目の視力が落ちることになぞらえたとされています。

僕の出身地である島根も製鉄が盛んで、某映画のモデルとなった場所もあり、ちょっとした縁を感じたのでこの作品を作ることになりました。(永島信也)

森謙次「花神かしん貝習い」

MORI Kenji "Apprentice to Kashin, the God of All Growth"

5.2 × 2.8 × 1.7 cm

珊瑚
coral

187,000 yen



花神は、中国で万物生長をつかさどる存在。
この作品は、その花神の見習いです。(森謙次)



山鹿「吸血鬼」

YAMAGA "Vampire"

5.2 × 4.1 × 3.1 cm

鹿角 象嵌：黒水牛角
stag antler Inlay: buffalo horn

187,000 yen



灰になる断末魔の吸血鬼です。(山鹿)

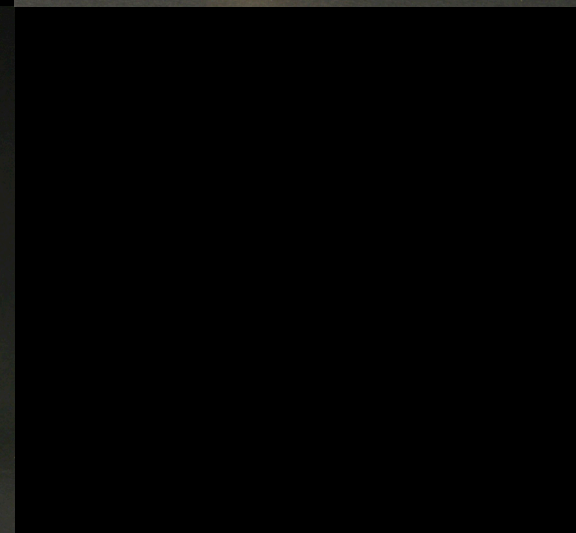
由良薰子 ^{ようかい} 熔怪根付「^{しがらきだめき}信楽狸？」

YURA Kaoruko "Yōkai Netsuke, Shigaraki Ware of Raccoon Dog"

5.7 × 3.4 × 1.8 cm

磁土に上絵
overglaze on porcelain

50,600 yen 抽選販売



あれは、信楽狸……？（由良薰子）

樂虫 「王子の狐火」

RAKUCHŪ "Fox Fire at Ōji"

7.9 × 3.4 × 1.8 cm

象牙
ivory

462,000 yen



東京都北区の王子に現れる狐火にまつわる民間伝承。大晦日、全国から狐が集まり王子稲荷に詣でたとされます。狐火をまといながらゆらゆらと王子稲荷へ向かう狐たちは幻想的だったでしょう。王子では現在でも、狐の装束を着て王子稲荷へ向かう狐火を再現した伝統行事が行われ親しまれています。(樂虫)

利歩 ^{らいどんう}「雷曇烏」

RIPPO "Crow-billed Tengu Riding on a Cloud Bike"

4.5 × 3.3 × 2.4 cm

鹿角 象嵌：水牛角
stag antler Inlay: buffalo horn

418,000 yen



烏天狗が、山の中にあるサーキットで空から見ていた MotoGP（バイクレースの世界選手権）に刺激を受けて、雲を猿のようなバイクに変化させてライディングを楽しんでいる図の「雷曇烏（らいどんう）」根付です（声に出すと「雷曇（らいどん）」がライドオン（Ride on）」に聞こえる?）。雲のバイクには底面に動力源の“雷神の太鼓”が埋め込まれています（EV バイクならぬ EV 猿です。^^）
（利歩）



豆巾着「鬼の念仏」(左): 大津絵のひとつ。

スマホ巾着「般若」: 鬼と化すほどの深い悲しみ。それはいったい何だったのか。

普通サイズ巾着「されこうべ」: 物想う髑髏。(れんげ堂)

豆巾着「鬼の念仏」
Small Drawstring Bag,
Demon's Prayer

縦 10.5 × 横 7.5 cm

木綿畝織墨染め、古布、皮革、陶
cotton-webbed fabric dyeing,
old cloth, leather, ceramics

8,250 yen



スマホ巾着「般若」
Drawstring Bag for Smartphone,
Mask of Female Demon

縦 15.0 × 横 10.0 cm

木綿刺子墨染め、古布、皮革、陶
cotton stitching and dyeing in black,
old cloth, leather, ceramics

8,250 yen



普通サイズ巾着「されこうべ」
Regular Size Drawstring Bag,
Skull

縦 16.5 × 横 14.0 cm

木綿帆布墨染め、古布、皮革、陶
Ink-dyed cotton canvas, old cloth,
leather, ceramics

8,250 yen



【作品販売について】

展示会場に加え、メールやお電話・FAXでも御注文を受け付けます。

初日9日（土）のオープン当初の数時間は、現場が混みあう可能性があります。
メールやお電話・FAXでのご注文と、会場でのご注文の間で時間差が発生することも予想されます。
あらかじめ御理解いただけましたら幸いです。

1 至水と由良薫子、2名の根付作品は、抽選販売です。
以下抽選販売の概要となりますので、エントリーをご希望の方はご一読いただきましてからお申し込みくださいますよう、
お願い申し上げます。

- ・抽選販売のエントリー受付期間は、2022年7月9日（土）13時～7月12日（火）10時までとなります。
- ・エントリー作品数の制限はございません。ご希望の方は至水・由良薫子作品の両方へ同時にエントリーいただけます。
- ・エントリー方法は、会場でのお申込みと、メールでのお申込みの2通りになります。

※抽選販売については、エントリー受付期間終了後すぐに抽選を行い、7月12日（火）中に抽選結果のご連絡をさせていただきます。

2 かぶ、狛、三味、道甫、永島信也、美洲、万征、森謙次、山鹿、楽虫、利歩、れんげ堂は、通常の先着順での販売です。

3 メール・FAXでのお申し込み方法

抽選エントリーもしくはご購入をご希望の作家名と作品名を明記の上、合わせて以下5点の項目記載の上お申し込みください。

- ①お名前
- ②お電話番号
- ③郵便番号
- ④ご住所
- ⑤ご成約となった場合の作品受け取り方法（ご配送 or ご来店）

▼お申し込み先

e-mail netsukeya@hanakagesho.com

（メールの件名は「勿怪の幸い展 抽選（もしくは販売）申し込み」としてくださるとスムーズです）

tel/fax 03-3827-1323

※ご配送の際には、送料として500円をご負担いただきます。
※お支払については、ご配送の場合はお振込み、ご来店の場合は現金またはカード（1回払のみ）で承ります。
※御注文の受付に関しましては、1営業日中には確認しまして御返信を差し上げます。

ご不明な点は、メールやお電話でもお受けしますのでお問い合わせください。よろしく願い申し上げます。

e-mail netsukeya@hanakagesho.com

tel/fax 03-3827-1323

十四名の現代作家による、もののけ根付展
勿怪の幸い 第三集 デジタルカタログ

2022年7月9日 根津の根付屋 刊行
東京都文京区根津 1-1-14 らーいん根津 202

<https://www.hanakagesho.com>